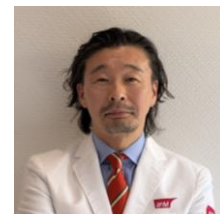


斎藤糧三 (RYOZO SAITO)
斎藤クリニック院長
株式会社日本機能性医学研究所所長



【抄録】

メンタル不調の背景にある慢性神経炎症に対し、 β -ヒドロキシ酪酸 (BHB) を主成分とするケトンサプリと、間葉系間質細胞培養上清液 (MSC-CM) を併用する戦略の理論と実践を概説する。間葉系間質細胞培養上清液に含まれるサイトカインによる、ミクログリア表現型の調整、神経保護・可塑性促進、血液脳関門の保全と血流改善が期待され、また、自律神経機能指標 (HRV) の改善傾向も観察される。一方BHBは代謝炎症の抑制と神経エネルギー支援を担い、うつ・不安・ブレインフォグなどに対する症状改善を症例群から示唆する。講演では、自施設での経験をもとに「インフラマトリックス16」に基づく原因評価の枠組み、栄養・睡眠・運動介入との最適な組み合わせ、投与プロトコルの考え方、安全性と限界、今後の検証課題を整理し、現場実装に資する実践指針を提示する。

【略歴】

1973年生まれ。1998年日本医科大学卒、産婦人科を経て機能性医学・栄養療法・点滴療法・ホルモン療法を統合した臨床に従事。

2008年に日本機能性医学研究所を設立 (2009年法人化)、2018年に株式会社ライフクエストを設立、2021年には順天堂大学と共同で「デジタルセラピューティクス講座」を開設、2022年に機能性医学と再生医療を融合した「斎藤クリニック」を開設。

著書に『サーファーに花粉症はいない』 (小学館)、『慢性病を根本から治す「機能性医学」の考え方』 (光文社新書)、『ケトジェニックダイエット』 (講談社) など。

【所属学会・所属団体】

2014年、日本で初のIFM (The Institute for Functional Medicine) 認定医。

